

令和元年度（2019年度）第2回熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 令和2年（2020年）2月13日（木）

午前10時00分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

<p>《出席者》</p> <p>■熊本市立図書館協議会委員</p> <p>吉村 純一 委員 (会長)</p> <p>藤井 美保 委員 (副会長)</p> <p>加藤 貴司 委員</p> <p>原 輝智 委員</p> <p>下城 明美 委員</p> <p>西本 彰文 委員</p> <p>鎌田 文代 委員</p> <p style="text-align: right;">以上 7人</p> <p>《欠席者》</p> <p>なし</p> <p>傍聴者 0人</p>	<p>《出席者》</p> <p>■熊本市側</p> <p>坂本 熊本市立図書館長</p> <p>橋本 植木図書館長</p> <p>上村 とみあい図書館長</p> <p>松田 城南図書館長</p> <p>河瀬 プラザ図書館長</p> <p>渡部 生涯学習課長</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口館長補佐 (熊本市立図書館) ・井手主幹 (") ・成松主幹 (") ・福田主幹 (") ・岩野主査 (") ・菅主任主事 (") <p style="text-align: right;">以上 12人</p>
--	--

令和元年度（2019年度） 第2回熊本市立図書館協議会 議事録

- 1 開会
- 2 熊本市立図書館長挨拶
- 3 議事
 - 議題1 子ども読書活動推進計画について
 - 議題2 新サービスの取組状況について
- 5 閉会

坂本市立図書館長より挨拶

委員・職員の紹介は席次表で確認するというので省略

※公開時は、委員名はすべて「委員」とします。

【議事】

議題1 子ども読書活動推進計画について

(事務局より説明)

委員 特に新しく出た点で非常に子どもたちにご配慮いただいた取り組みがあったので、そちらについては、もうちょっと具体的に知りたいなというのがある。2点ほどお願いしたいと思う。

1つ目は学校へ行くことが困難な子どもたちというのは、院内学級のことなのか、不登校の子どもたちを含めてということなのか、もしそうなれば、具体的な、ある程度方向を知りたいということ。

2点目が、児童育成クラブのことで、これもありがたいことで、子どもたちは本当によく読む。ちょっと思ったのが、配送はどんなふうにしてするのか。現在も各学校の図書館には学校主事さんに持ってきてもらって、ありがたいのだが、児童育成クラブの配送となると、また非常にマンパワーがいるのではないかと、その具体的な方法とかあれば教えていただきたい。

委員 関連で、どっか見に行った時に、育成クラブの部屋は結構、足の踏み場もないほどせまい。あそこに図書を置くのかと最初は思ったが、学校には図書館、図書室もあるし、そっちの方かなとか、自分ではどっちが育成クラブの支援なのかなと思った。その辺、具体的に答えを。

委員 児童育成クラブに行く子どもは、大体低学年の子どもだと思うが、そうすると先ほどの意見にも出たように市内のクラブ、結構、所にもよるが、狭くて、だけども子どもたちはいっぱいという感じで、本は来たのはいいけれども、落ち着いて本を読む環境でないような所で、しかも1・2年生とかが読むという環境。どう本を届けるだけでなく、どうその環境を作るかということが結構キーポイントになる。

ですから、物理的な環境の問題とあとは、できれば本だけが届くのではなくて、読み聞かせボランティアの方が時々読み聞かせをしてくださるとか、あるいは、指導員がそういう子どもの遊びや読書の指導ができる力をちゃんと持っていれば、それが一番いいと思う。そういった観点での指導員の養成・研修といったようなことも絡めてやらないと、せっかくのいいアイデア、取組が十分効果を上げないまま終わるのではないかと危惧するところがある。

委員 育成クラブについては、うちの息子も通わせて頂いているが、指導員の方の話では、限られた予算の中で限られた冊数しか増やすことができない。読んでいる内容をちょっと見ると、結構古いものを読んでいたりする傾向もあって、ずっと気になっていた。配送をしていただけるのはいいと思うが、その支援体制の具体的なところと指導員も迷われているようで、子どもたちが読みたいもの、希望を

吸い上げてそれをできる限り購入するという傾向にあるようなので、ちょっとそこらへんも気になると思っていたので、含めてよろしくお願ひしたい。

委員 学校に行くことが困難な子どもについての質問と育成クラブの環境面についていろいろと出ていますのでお答えを。

事務局 児童育成クラブの件から話させていただくと、実は児童育成クラブには図書館から今まで本を借りに来られて独自の文庫を設けているところが結構あった。ところが非常に児童育成クラブが多忙化し、スタッフの勤務時間の問題もあって、なかなか借りることが難しくなっているというのが現状である。せつかく本を置いて読める環境があるのに、忙しくて本が借りられませんという事例がたくさん出てきたので、何とか図書館としてお手伝いできないかなと考えたことが始まりである。

ただ、実現にはご指摘の通りいろいろな困難があることは承知している。まずは、熊本市がやっている児童育成クラブではなく、自主的に保護者の方が運営されている育成クラブの方が融通も利くというところもあるので、そこをモデル的に考えて、図書館から本を届けるような取組をモデル的にやってみて、いろいろ課題を洗い出して、徐々に広げていってはどうかと考えている。

選書についても、今までは図書館に来てご自身で選んでもらっていたが、それが難しいなら、こちらで選ぶことも可能だし、事前にリストアップしておいて頂ければ、それをピックアップして持って行くことも可能かと思う。可能な限りやっついこうと思っているが、ただ、図書館側にもそのスタッフをどう捻出するかという課題がある。新たなサービスを行うためには、何かどこか新たに合理化するというのを同時にしていかないといけないというところもあるので、そこも取り組んでいきたい。いっぺんに全部できるのは難しいというのが現実かと思う。

あと、ここに所管課は市立図書館しか書いてないが、児童育成クラブを担当する課もあるのでしっかり話を進めていく必要があると考えている。

委員 配送はどんなふうに行うかという点について。

事務局 配送は、ワゴン車があり、100冊、200冊くらいの感じだと思うので、積んで届けて、前の本を回収するという事で対応できると考えている。

委員 学校に行くことが困難な子どもさんについては。

事務局 学校に行くことが困難な子どもたちというのは、不登校のお子さんを対象と考えている。取組として16ページを見ていただくと入院している子どもへの支援ということで院内支援学級への絵本の配架は既に行っている。不登校のお子さんで、しかも、ここ（図書館）から歩いて10分から15分程度で着く適応

指導教室に通っているお子さんである。他県でこういった取り組みをしており、そこではそれを先にキャリア教育等に結び付けているが、その問題点として、まずは何しろ図書館に来てもらうことがハードルが高いと書かれていた。本当に実施できるだろうかと思いながら行ってみたら、所外体験学習として週に1回程度子どもたちをこちらの図書館に連れてきているという事実が分かった。もちろん適応指導教室に来る子どもたちは限られているが、その子どもたちは皆ここに来て本を読んでもらっているということが分かったので、さらにそれを押し進めていくような形で取組ができればと考えている。

委員 育成クラブについては、最初からフルサービスというわけではなく、モデル的な事業としてやっていくところからスタートということ。さらに追加の質問は。

委員 市民協働ということでこの方針の中に入っているが、やはり学校の図書館の図書司書の方との連携が効果的な気がする。司書の先生がいないとか時間が難しいとかあるかもしれないが、放課後に児童育成へ行く前に図書館にちょっと寄って選んで行くとかいうのもできないのかなあというちょっとした疑問がある。適応指導教室の話はあいぱるの話かと思うが、火の君学級とかもあるので、城南とかも近いかと思うので、そういったところも含めて考えていただければ。まず最初、フレンドリーを中心として、一つのモデルとしてという話であれば分かるが、やるのであればいろいろなところもあるので気を付けていただければありがたい。

事務局 おっしゃる通りで、あいぱる、ウェルパルだけでなく、その他にも適応指導教室、あるいは不登校児童生徒が通っている公認となっていて出席扱いになるフリースクール等もある。ただなかなか難しいのが、そういうお子さんがここまで来るというのが、またその上での特に小学生なんかの場合は安全面が……。ただ、ウェルパル、あいぱるの場合は非常に安心できるなと思ったのが、中学生中心の10人くらいが所外体験活動で図書館に来るときに大体3人から4人の指導員の方がついて来られる。そして一緒に活動して帰るという形なので、そこらへんも確保できているところから取組を始めて、西本委員からお話いただいたような所まで広めていければと思っている。

司書補との関係については、元学校にいたものとして、学校の中に児童育成クラブのお子さんを放課後に入れるというのは、なかなか難しい面がある。勝手に教室に入る等いろんな混乱が起きるので、なかなか学校としては対応が難しいところだと思う。ただ、非常に育成クラブの指導員の方々も読み聞かせ等の力を上げたい、読書指導をしたいということで、本年度、青少年教育課の指導員の方から図書館に読み聞かせの指導ができる講師を紹介してほしいとのお願いがあったので紹介している。児童育成クラブの指導員の方々への読み聞かせ指導等も

連携して行っている。まずは、そのところからしっかり読み聞かせ、読書指導がもっていければと思っている。

委員 最初からフル装備ではなく、徐々にスタートしていかざる得ない。

委員 育成クラブの方はありがたい話であるが、あれだけ物凄く混雑しており、これから先は6年生まで持つという計画である。6年生まで行ったら何百人になるんだろうかと思う。1年から6年までになるのだが、たとえば今、学校図書館に配送をしてもらっているが、今回は児童育成クラブには低学年用、1年用とか、次は中学年用とか順番で回すのも一つ手かと思う。低学年が読んでいる時は、中学年の子どもは運動場で遊ぶとかいう手立てもあるので、ローテーションで学年ごとでやるということも考えられる。

学校に来れない子どもさんのことを考えると、担任がそこまではできないので、不登校対応の方々が児童生徒にパンフレットとか、これがあるよと持って行って勧めてもらうことができるのではないか。

委員 不登校の子どもたちについては、私たちお話ボランティアで益城の方のキリスト教系の施設に14, 5年くらい行っている。沢山はいないが、その中で読み聞かせを聞けるような子どもたちを先生が連れてくる。お話ボランティアと言って、私たちもそう力はないが、大体親の虐待とかいう子どもが多い。私たちは親の立場のつもりで子どもたちに接していつている。4月には口も利かない子どもが、だんだん時間がたってくると、本の中に入っているいろいろなやり取りしたりできるようになる。お話ボランティアの役割も不登校の生徒にはとても重要だと思う。前の担任の先生が子どもたちが変わったと言われた時は、本当にやっててよかったと思う。そういう意味で、お話ボランティア等の派遣というのが書いてあるが、この市立図書館も121名いるので、そういうのを活用されてぜひ進めてほしいと思う。

院内支援学級への絵本の配架というのは、私も日赤病院の小児科病棟にもう25年通っている。何年か前に図書館からたくさん本を届けていただいて活用している。入院している子どもたちをここに連れてくるのは、かなり難しいと思う。病院では感染を恐れている。昨年の12月から3月まで、私たちお話ボランティアもインフルエンザが流行るということで入れない。だからこちらから行って、子どもたちに本を読む。沢山はいないので1対2, 3人ぐらい。本当にコミュニケーションが取れて、子どもたちも本の中に入ってくる。さっきの育成クラブで、お話会のボランティアでも、百何十人もいて絵本を読んであげる環境にはないと言う、騒がしくて。そういうところも考えて、絵本を読んでやれば良いというのではなくて、数人で本を読んであげるような環境を作ってあげないとなかなか本の中に入ってこれないと思う。

- 委員 できるだけ多様な人たちが参加していく環境を作っていくことが大事だと思う。行政で直接的に対応できることは限られている。ボランティアの力などを借りて、できるだけ人間として接していくことが求められているという印象である。是非、参考にさせていただければ。
- 委員 ユア・フレンドをやっているのはご存じだと思うが、学生さんが直接不登校のお子さんのところへ行くという制度がある。そういう研修の時間があつたと思うので、図書館の利用の仕方なども取り入れていただくと、学生の道具の一つになるのかなと思う。若いお兄ちゃん、お姉ちゃんの立場で行くだけではなく、いろんなものを持って行っていただきたいので、そういうのも一つヒントになればと思う。
- 委員 子どもたちに学校などで指導していただいたり、いろんな制度が充実していいなどと思う。どうしても、後は家に帰った時の家庭でどう読むか、自分にも言い聞かせたいが、帰って来てバタバタと用意して、もう寝る時間がきてしまった、早く寝せるのも優先させたいし、読み聞かせもしたいし、約束してても、もう時間がないから「もういいか」となることもある。そう思っている親も多いと思うが、親に対する啓発活動というか、そこをもっとして欲しい。プリントはたくさん持っては帰ってくるが、プリント読んで自覚はするとしても、親と一緒に読もうという環境づくりを持とうという意識づけを優先するのも大事かなと思う。新たな取り組むではないが、長期休暇の間の学校図書館の開放についてであるが、開放というよりは、学校によって違うかもしれないが、指定した日、この日とこの日だけ開いてますというような状態であつた。であれば、行きたいと思つてても行けない日だったりしたので、もう少し期間をとっていただくと育成クラブの帰りに一緒に寄ったりとできるんじゃないかと思う。
- 委員 親に対する周知活動は？推進計画の中にはないのか？
- 事務局 15 ページの④番で、家族での読書活動の推進ということで、いくつか取組が書いてある。
- 委員 読書感想文コンクール以前あつていたが、あれがあるとやる気になるのかなと若干する。なくなった理由は？
- 事務局 熊本地震の年までは年間計画に入つていたのでやつたが、翌年から人員削減というか、正規の職員が再任用になつたりというような環境の中で、事務削減を教育委員会の方から指導があり、他の団体でも読書感想文コンクールもあるということで、他の読書コンクールの指定図書は用意するが、こちらでやつていた読書感想文コンクールは業務の中から削減になつた。
- 委員 教育の現場から読書感想文コンクールがなくなつたというわけではない。
- 委員 他団体が様々ある。主にやつているのが SLA で、あれはずっと全国につながる

もの。ただ、規模としては、やはり書くというのが最近機会が少ない。だからこそ、大変とは思いますが、できるだけ、将来の子どもたちのためということであれば。実は、私も審査員をするが、我々もある意味手弁当で、何の報酬もなくやっている。もちろん、こちらの方は人員削減ということで、コピーしたりとか大変である。苦労は十分承知している。

実は書くということのつながりが、この前の成人式でもあり、生涯学習課長もお見えだが……。20歳になった子どもたちが作文を書くが、見事な作文だった。感性というものがあって、感性を育てるためにはやはり小さいころからいろいろな読書体験などの体験をしなければならない。是非とも、読書感想文は結構縮小しても構わないので、続けて頂けたらなと思う。

次に、夏休みの図書館のことは担当が学務課で、実は、学校司書補助員という方々の勤務の関係で、夏休みは以前は0だったが3日間だけいいよということになったので、この方々の勤務条件なので、その点は厳しいかなと思う。この前国会で学校の図書館司書をもっと増やそうという話があったが、ある党が唯一反対した。AIがやるだろうということだった。とんでもない。司書がしていることがどれだけAIではできないということを知らないと思った。熊本市は恵まれている。補助員の方々、時間は限られているが、あの方々のおかげで子どもたちは相当本を読んでいる。

委員 読書感想文について強い意見が図書館協議会で出たということを是非、記録しておいていただきたい。

議題2 新サービスの取組状況について

(事務局より説明)

委員 公民館向けの貸出の件で、確かに公民館の方は本が古くなっていて少ないということで、300冊以内ということで始めたのは10月から？今までの状況で、例えば公民館、どこでも求める本は一緒ではないか？もし、全部の公民館が申し込んだ時には無理だろうし、今までのやり取りでの課題があれば。

事務局 もともとこのサービスを始めたのは、利用者アンケートを取ったら、非常に本が少ない、本が古いといった不満が非常に多かった。本当なら、新しい本をたくさん配置できれば、それが一番いいと思ったのだが。同じ本ばかりなので読み飽きたという意見に、少なくともあまりお金がかからない方法で対応するために、本館の本を一定期間お貸しして、3か月300冊なので3か月ごとに入れ替えれば年間1200冊くらいになるので、1年間、公民館が新しく買う本くらいの量にはなるので、少しは緩和できるのではないかと思って始めた仕組みである。ただ、どこも同じ本を要望するのではないかということについては、早い者勝ち

というか、先に取りられたところが本は限りがありますので、そこが持って行かれることになる。また、利用者は、どこの図書館にあっても読みたい本があれば、予約をして順番が巡ってくれば借りることができるので、こちらの方で対応できればと思っている。

ただ課題もあって、まず 300 冊を借りに来る手間をどうするか。また、借りたら返してもらわなければならないので、その手間もあって限られた公民館のスタッフでどこまでできるかが大きな課題となる。利用は今ボツボツ上がってきている。

事務局 実績が、五福公民館が紙芝居を 10 冊借りて返却が済んでいる。明日、花園公民館が 200 冊の予定で期間は短いが借りに来る予定になっている。

委員 あまり利用がないようだが。

事務局 これからだと思う。

委員 職員が取りに来なければならないとなると……。皆それぞれ、出先も手一杯なので…。希望があるのかな、300 冊は、確かに足りない、少ないとは言っていたが…。

委員 私も気になるのが、先ほどの資料の中で、施設別に貸出冊数が大きく異なったり、利用者の年齢構成が異なったりとエリアによってライフスタイルとか人口動態が違う。それに合わせて、300 冊でどれだけ対応できるのかというのは難しいところがあるかもしれない。

しかし、他方で電子書籍貸出サービスとか、様々な電子化が行われている結果、この辺りにこういう方々が住んでいて、こういう利用があるというデータが、多分、図書館である程度使える状況になっていると思うので、そういったことを生かしてこういうサービスに役立てていくと情報化の果実をとることができるのかなと思う。ぜひ、そういうことも念頭においてやっていただきたい。

委員 先ほどの参考指標と関係することだが、資料 2 の電子書籍貸出サービスの中の月別貸出冊数の合計 4859 冊の中にお子さん、小学生というのは少しは絡んできているのだろうか。あと、電子書籍を読書に含めるのかどうか、今後参考指標として、子どもたちはスマホでライトノベルとかいっぱい読んでいるので、そういうところまで指標を拡大していかれるのかお聞きしたい。

事務局 まず、統計上 4859 回の貸し出しに対して、どういう方が読んでいるかというデータは残念ながらない。実は、提供業者のプラットフォームを使っている関係で、なかなかうちの要望のデータは取り出しにくいということなので、これには分からない。電子書籍を読書に含めるのかどうかということは、含めたいと思っている。ただ、通常の書籍でどうだ、電子書籍でどうだ、合計でこうなりましたというような形で整理していこうと思っている。

委員 戻ってしまうのだが、例えば本 1 冊といったらどれくらい読めば 1 冊なのか。休日に本を読む指標があるが、今のライフスタイルでは休日に本を読む時間というのはなかなか難しいのかなと思う。そういったところが関係してくるのかなと思う。スマホを使うと本が読めないではなく、スマホでも本は読めるので、そこら辺をどう伝えていくのか、発達段階に応じて小さい頃は紙の媒体に触れてもらいたいと思うが、高校生ぐらいになったらそれでも全然構わないと思うので、指標の取り方も、もう少し柔軟にしていっていいのかなと思う。

委員 館長が言われたように、もはや後戻りはできないというか、それ（電子書籍）はもう読書に含めるということで考えていかざる得ないし、若者の読書離れに対する新たな取り組みという意味では、非常に効果的だと思われるので、それもやっていかなければならないと思う。各年代ごとに対策をとっていくということを急がねばならない。

データの話については、提供業者がデータを持っていて市のほうで持っていないというのはちょっと問題では。

事務局 仕組みを申し上げますと、どういう利用者の方で年齢構成がどうなっているかというのは、うちが（市立図書館が）運営しているシステムでは分かるようになっている。ただ、これは（電子書籍は）東京の業者のプラットフォームにつながるという形になっているので、図書館の利用番号を入力したら、あらかじめ利用を許可している人ということだけが伝わる仕組みになっている。東京（の業者）では、番号の人の住所、氏名、年齢のデータは持っていないので、そういう統計が出ない。

委員 予約件数とかからは見られるのか。属性は？そこまで分からない？

事務局 分からない。

委員 それを理解できるような具合にしておかないとせっかくやっているのにもったいないので、業者と相談してほしい。

委員 電子書籍に関しては、ものすごくありがたいと思っている。予算もだいぶんかかるだろうが。

考えたことが 3 つあって、1 つは、さっきから公民館もそうだし、育成クラブもそうであるが、「どうやって本を持って行こうか？」それが非常にネックになっているが、電子書籍だったらその心配も全くないというところが 1 つある。

2 つ目は、それぞれのデータが参考になる。業者、出版社からしたら、ものすごくほしいだろうし、我々も使えたらいいなと思う。

もう 1 つはお願いだが、電子書籍を今見ているが、例えば「カブトムシ&クワガタ百科」。子どもが喜んで見そうなものだが、カブトムシとクワガタの生態、体の仕組み、捕まえ方、飼い方まで漢字交じりで書いてある。これは子どもは読め

ない。よかったら子どもが中身を見るから、対象が子どもならば、子どもが分かりそうな説明をすべきであって、要望を出してもらえたら（利用が）もっと増えると思う。学校の方でもいっぱいやり方とか子どもたちに知らせたいと思う。

委員

累計予約件数トップ 10 では、説明があったように実際リアルな本でも人気がある本が並んでいるわけだが、電子書籍の腕の見せ所は、このランキングの下位の方であって、現物ではなかなか読むことができないような本をそろえることが可能だということだと思う。そういったことをデータの分析も含めて進めていくと、より多様なニーズに合わせた図書館運営ができると思う。

委員

全体的なことで、令和 2 年度からの素案を出してもらっているが全面的に素晴らしいことだと思うので、学校の方でも理解して、協力していきたいと思う。ただ、どうしても計画は立てられるのだが、いざ行うとなるとどうしても予算関係が出てくる。もちろん、市立図書館だけではなく、教育委員会全体のことであるが。

中でも今日は、特に子ども読書計画なので、それについて言えば、例えば学校図書館推進事業は、平成 27 年度には予算として 1,100 万ぐらいあったのが、平成 30 年度には半減して 680 万前後の予算。

子ども読書活動推進経費ということも 480 万ぐらいあったのが、平成 30 年度では 150 万、かなり半分以下に減っている。是非とも皆さんに頑張って頂いて、予算の獲得、将来の熊本市を作るということで、これ以上の予算の削減がないようにどうかお願いしたい。

委員

25 ページの「朝の読書活動等を 1 年を通じて実施している学校の割合」だが、小学校は落ちて中学校は上がっている。何かあったのか、たまたまなのか？

委員

大きい理由が 1 点と小さい理由が 1 点ある。朝の読書活動、子どもたちが自習的に読むのもあるが、もちろん、ボランティアの方々がいらっしやって読み聞かせをしていただくというのがある。

一番大きい理由は、実は読書活動以外に、新学習指導要領というのが出てきているが、様々なことを我々はやらなければならなくなっている。具体的に言うと、英語活動、外国語活動、プログラミング教育、もうハッキリ言って授業時数も足りない。そういうことで、少しでも朝の読書活動の回数を減らして、という学校が少し出てきている、ということがまず大きい原因と思う。

もう 1 点は、朝の読み聞かせ活動、本当にありがたい。本校でも毎週金曜日にやっているが、半分にできないかというのが PTA から出ている。なぜかという、おうちの方、お母さんたちが今まで一生懸命やって頂いていたが、共働きの多いので PTA としても悲鳴を上げている状況である。特に最近、PTA 活動に対して

ちょっと一歩置くという方がいる。そういう意味で協力していただける方が減ってきているからなくなっているかなと思う。

終了